

2020年度訪問指導時の講評による英語科教育実習生授業の変化

Changes in a 2020 EFL student teacher's instruction through an on-site feedback session

静 哲人

Tetsuhito SHIZUKA

Key words: 英語授業, 教育実習, 訪問指導, 授業改善, 授業録画

これまでの実習指導

大東文化大学英語学科では例年 15～25 名程度が教育実習を行っているが、2 名の教職担当教員がスケジュール調整の可能な限りにおいて実習校を訪問している。その際、学生の授業を観察／ビデオ撮影をし、時間がある場合には直後に別教室を借りて講評を行う。さらに幸運であれば同日その後の授業コマで同じ学生が同じ範囲の授業を別のクラスで行うのを観察し、直前の講評によってどれだけ授業が修正されるかを確認することもある。

2016 年度に訪問観察した中に、生徒との「双方向性」および教師としての「役者性」という点では非常にレベルが高かった一方、「英語を使って教える」という点に関しては改善の余地が大きかった中学の授業があった。そこで静(2016)は、その学生が教科書本文を日本語で解説した場面のビデオから彼の発話を一言一句書き起こした上で、その同一部分をそのまま「英語を使って教える」場合のスクリプト例を対比的に提示した。

2017 年度の高校の実習のなかで、やはり「英語を使って教える」という点について大きな改善が可能だと思われたケースがあり、静(2017)は具体的な板書イラストおよび英語による説明スクリプトを提案した。また同じ 2017 年度の中学の実習のなかに、(1) 訪問時に筆者と淡路佳昌准教授で授業(ビフォア授業)観察・ビデオ撮影を行い、(2) 直後に講評して修正提案を行い、(3) 後日その講評に基づいて当該実習生が同一教材で別クラスに授業したもの(アフター授業)を固定カメラでビデオ撮影することができた、という稀有なケースがあった。

そこで静・淡路(2017)はこのビフォア授業とアフター授業の比較分析を報告したが、実習が行われているその場に赴いて指導講評することには、大学での事前の指導だけでは実現するのが難しい効果がたしかに存在することを実感する結果となった。

2020 年度の実習指導

コロナ禍に見舞われた 2020 年度の英語学科の教育実習生は例年より少ない 13 名であった。感染予防の観点から訪問実習は例年ほど積極的には行わないものとしたが、教員志望度が強く次年度から教師になることがほぼ確定していた 2 名の学生(中学校 1 名、高校 1 名)に限定して訪問を行った。このうちの中学での実習生について、(1) A クラスでの授業(ビフォア授業)を観察・録画し、(2) 1 時間かけて講評、修正提案を行い、(3) B クラスで同一教材範囲を用いて行った授業(アフター授業)を観察・録画することができた。本稿ではこの実習生のビフォア授業とアフター授業を比較対象として考察する。

授業環境

実習校・学年：東京近県の公立中学校第 3 学年

教科書と教材：*Sunshine English Course 3*

Program 6. Let's Talk about Japanese Things

本文：

Have you seen this before? It's a Japanese toy called a *kendama*. I'll show you how to play with it. You catch the ball in one of the cups, or on the pin, like this.

I think playing with a *kendama* is more difficult than playing with a yo-yo. What do you think?

A *kendama*, like a yo-yo, is a toy enjoyed by both children and adults. Once you start playing with it, you can't stop.

ビフォア授業詳細

※最初の4桁の数値XXYYは動画の開始時を起点としてXX分YY秒経過時点を示す。

※実習生が文法的または発音的に不適な発話をしている場合は、直後に[→]として適な発話を補っている。

0000: (Paprika 英語版 CD をバックグラウンドで流しつつ実習生は生徒の英作文課題をチェックしている。)

【歌】

0125: Okay. Let's start today's lesson. First, let's sing Paprika, okay? Let's stand up. And look at the screen. Don't look at the paper. (一部の生徒、理解できず少し戸惑う。) ということ。紙を見ないでって言いました。

(Paprika の歌詞がスクリーンに投影してある。) オークー、じゃあみんな朝イチきついと思うけど頑張って歌おうね!

0203: (CD を流し始める。実習生はタンバリンでリズムを刻みつつ、自分でも歌いながら、生徒間を巡回し、生徒の口元を見る。一度「いいね、声でてるね」と個人に。ただし時間の半分以上、実習生の視線は生徒ではなく前方スクリーンにある。)

0312: Okay! 今日はここまでね。みんなうまくなったね。拍手〜! (生徒拍手する) Okay please, sit down.

【本日のメニュー説明】

0330: (スクリーンを上げる。黒板に本日のメニューが書いてあるのが現れる。) 板書と発話の対応を記す:

黒板に書いてある文言	指し示しながらの発話
今日の目標 Program 6 Let's talk about Japanese Things ポイント1 「～された」という基本文を覚え発表しよう	Okay let's make sure [前置詞を抜かした] today's goal and plan. I'll explain [→ explain] it in Japanese. ポイント1
ポイント2 本文を読めるようになろう	「～されたという基本文を覚え発表しよう」前回

	ちょっとやったよね。
今日覚える英文 This is a Japanese toy called a <u>kendama</u> .	この文: This is a Japanese toy called a <i>kendama</i> . (と2回言う) この赤線引いてある文がポイントだよ。補足説明する文。
Today's Lesson 今日の授業	Okay, and "Today's Lesson" 今日の授業は、
Fun Time song ～Paprika～ 楽しく歌おう!	歌いました、パブリカ。
絵・発表 Speaking 発表できたかな? 男子1人、女子1人発表してみよう!	また発表してもらいます! わ? わ? やってきたよね?
Reading Time 1. CD 2. Chunk (チャンク) 3. 各自で練習	そのあとリーディング、リーディングして、
Content 内容確認 理解できた? 3つの質問答えてみよう。	Content 内容理解して、
今日覚える英単語 Section 2 の新出単語 cup, pin, yo-yo, both, both A and B, adults	そのあと書いてないけどグルグルします。いいい! (イエイ!)

【宿題発表準備】

0440: (再び、スクリーンを下ろす。) Let's move on to presentation. Did you do your homework? (生徒: 途中) 途中? あ、でもやってあるじゃん。Okay, so, I'll give you two minutes. そう、two minutes を give you しますよ。終わってない人はどうにかして。終わってるひとは1文、2文プラスして書けるように、頑張る。

(注: 宿題内容は、2つ絵を描いて、それを説明する文5行ほどを書くというもの。そのなかにターゲット事項である過去分詞による後置修飾を含む。例として3つ目には絵が与えられており、実習生の書いたモデル文が印刷されている。それにならって生徒はそれぞれ2つ、自作の絵と文章を作成するのが課題である。実習生は生徒の机間をまわり宿題の完成度合いチェックしながら、次の発表者を選ぶ。)

【宿題発表】

0705: Okay, time's up. どうですか、できた？あとで回収させていただきます。I chose two of you. I want two people to have [→make] a presentation. そしたら…先生が書いた文見て、先生が書いた文。一番下の。この文で一番ポイントとなる文は何？(生徒: The dog loved by my family is cute and smart.) そうそう、何人か言ってくれました。The dog loved by my family is cute and smart. の文だよ。オーケーそれを踏まえて。

0821: (スクリーンに生徒1の絵を投影。) Yeah, it's cute. It's very very cute. What animal is this? (Rabbit). Yes, it's a rabbit. Maybe he or she wants something. What's this? (生徒: プリン). プリン、Yes, in English, it's "pudding". そう、書いてあるよね。I love pudding. これがプリンね in English. じゃあこれの英文作ってくれたの見てみましょう。It's drawn by <生徒氏名>さん。Could you read the sentences? 読んでくれる？

0902: (生徒本人が音読: My friend has a original character[完全にカタカナ読み]. His name is Usasawa. The rabbit loved by everyone is very cute. He wants to eat pudding.)

0921: Okay 拍手! この文で一番ポイントなのはどれ？(生徒: The rabbit loved by …[カタカナ読み]) おお、そうだね、is very cute. の文だね。じゃあちょっと先生も読んでみよう。

0935: (実習生が音読。a が an であるべきであることに気づかず読む。)

0950: Okay. じゃあみんなでこのポイントの文読みましょう。覚えようね。The rabbit loved by everyone is very cute. はい! (生徒リピート)。<生徒氏名>ありがとうね! (生徒: はい)。

1012: (次の絵を投影。) Who knows this character? 知ってる人～? What character is this? Yoshi! でも何してるんだらう? ちょっとわからないから文みてみようか。

1043: The picture was drawn by <生徒氏名>。

1053: (生徒本人がほぼカタカナ発音で音読: His name is Yoshi. Yoshi is on Mario Kart. He has small body. So he's a push over. He likes melon. I don't really like melon. Yoshi like a frog is a animal loved by people.)

1114: いいね。拍手! みんなこの最後の文、これはちがうんじゃないって気づかなかった? Yoshi …(生徒たち: s がない。三単現!) そう! 三単現の s で、likes だよ

ね。それから a animal じゃなく an animal だよ。オーケー、じゃあこの文をみんなで言ってみましょう。Please repeat after me. "Yoshi likes a frog is an animal loved by people." (生徒、この非文をフラットなリズムでリピート)。オーケーいいね! じゃあ、あとでみんな宿題回収するので、名前とか書いておいてね。<生徒氏名>ありがとうね!

【単語の意味と発音】

1248: Let's move on to Program 6 の 2. Let's review new words. Please open your textbook ... 6 の 2. Okay let's check new words.

1311: (スライドに英単語と訳語を提示。教科書を開かせた理由は不明。)

1320: Okay, repeat after me. (以下、1単語につき2回ずつ単語をモデル発音し生徒がリピートし、場合によって補足説明。)

"cup" cup ってどこの部分だけ? (けん玉を実物提示。) 横のカップの部分です。

"pin" ピンはどこ? 先の部分だよ。 (けん玉を実物提示。)

"yo-yo" ヨーヨーちなみにこれね。

"both" 両方の。これティーエイチどの口するんだって? マスクのなかでいいから頑張ってみて。そうそう。わかりやすいのを持ってきました。(ドラマ半沢直樹に出演した大和田常務役の香川照之氏が「おしまい death!」と言った"th"の瞬間のアップを印刷した紙を見せる。) Who knows this man? お～結構知ってるね。半沢直樹。He is 大和田さん。He said, おしまい death! の"th"の形。ちょっとみんな頑張って作って、この形。(実習生もこの th の形をつくり、見せる。) ちょっと真似してみて。あ th あい th いう th う え th え お th お (生徒一斉リピート。) both! (生徒: both!)

"both A and B" A と B の両方って意味ね。

"adult" おとな。複数形 s つけて adults.

【オーラルイントロダクション】

1510: そしたら 6 の 2 の内容に入っていきます。

Who can play *kendama*? Who can play with a *kendama*? できる人～? <生徒氏名>できる? ちょっと見してもらっていい? <生徒氏名>ちょっとやってみて。(生徒1前に出てまず「まわしとめけん」を試み失敗。つぎに「もしかめ」5回を成功。他の生徒は拍手。)

<生徒氏名>ヨーヨーとかできる? (生徒2が前に出る。) This is yo-yo. (生徒2、ヨーヨー失敗して床に落とす。) じゃあけん玉やってみて。(生徒2「まわしとめけん」を

試み失敗。)

1650: Which is easy to play? (と生徒2に質問し、生徒2はヨーヨーを指す) こっち? He said, this is easier to play with. じゃあこっちのほうが難しいと思う人? Who thinks it's difficult to play? (と言いながらヨーヨーを高く掲げる。だれも手を挙げない) How about this one, *kendama*? (と言いながらけん玉を高く上げる。かなりの生徒が挙手する) Oh! A lot of people think playing *kendama* is very very difficult. Okay.

【本文 CD を聞く】

1718: じゃあ本文の内容入っていきます。プリント配るね。配られた人、カタカナリーディングを見といて。裏のグルグルとか見ないで。

1835: First listen to the CD.

1840: (本文の CD 音声を1回流す。生徒はプリントを見ながら聞く。)

1913: Okay. すごいなめらかだったね。Yuki さんはけん玉できるらしいね。Yuki can play *kendama*. Yuki showed how to play. だね。じゃあリーディング練習していきましょう。

【チャンク毎・モデルあり・コーラス読み】

1930: Let's read chunk by chunk. じゃあ Repeat after me. (以下、" "の箇所を、教師モデル→生徒リピート。) "Have you seen this before?" 最後上げようね (と身振り。)

"It's a Japanese toy." /æ/だよ。前回やったよね、Japan! /æ kə sɛ tæ nɛ /! Japanese!

"called a *kendama*"

"I'll show you"

"how to play with it." (生徒はほとんど pray と発音。) うん、こども L エ L エ L エのところね。エルの発音前回やったよね。「外はカリカリ、中はトロトロ」のリとロを L に変えます。(教師モデル→生徒リピート。) おお良いね!"play" (play かなり生徒も直った)

"You catch the ball in one of the cups"

こころリズムね。you CATCH the BALL in ONE of the CUPS. (と大文字語の箇所で手で腿をたたく。) N つながるよ、ワンノ v the (腿叩くりズム読みを一回リピートさせる。)

"Or on the pin like this."

"I think"

"playing with a *kendama* is more difficult"

"than playing with a yo-yo." ここ/l/の音忘れないで。

エルだよ。

"What do YOU think?" こんどは下げるよ。

"A *kendama*, like a yo-yo, is a toy"

"enjoyed by both children and adults." (both は二重母音であることに言及。生徒は children の n をんで代用しているが、それにはコメントできず。)

"Once you start playing with it" (with it を生徒はどちらの音節にも強勢を置いて読むが、それにはコメントできず。)

"you can't stop."

オーケー、読めるようになったかな。

【バズリーディング】

2307: Self-reading 2分とります。Ready? Go!

2315: (見回りながら、適宜発音の個人指導をする。)

2423: 終わった人は繰り返しやってね! 繰り返し。

2507: Okay. Time's up. 途中でもそこでストップね。

【チャンク毎・モデルなし・コーラス読み】

2510: みんなで試しに読んでみようか。(以下のスラッシュ部分でカスタネットを鳴らしタイミングを取る。)

Have you seen this before? / It's a Japanese toy / called a *kendama*. / I'll show you/ how to play with it./ You catch the ball in one of the cups,/ or on the pin, like this. / I think / playing with a *kendama* is more difficult / than playing with a yo-yo. / What do you think? / A *kendama*, like a yo-yo, is a toy / enjoyed by both children and adults. / Once you start playing with it, / you can't stop. / いいね~! 読めてる、読めてる good!

【センテンス毎・モデルあり・コーラス読み】

2617: 次はセンテンスリーディングに移るよ。Repeat after me. (文毎に、教員モデル→生徒リピート。途中、Japanese の冒頭が/dʒæ/であることを再度注意喚起。)

【センテンス毎・モデルなし・コーラス読み】

2800: Okay 読めたかな。じゃあ生徒のみでいきます。(文の区切りでカスタネット。生徒、声を合わせて読む。)

2849: オーケーいいね、読めてる、読めてる。じゃあ何人か読んでもらおうかな。読みたい人! いないか...

【個人読み】

2908: (生徒3、立って前半音読 "Have you seen this before? It's a Japanese toy called a *kendama*. I'll show you how to play [pray と発音] with it. You catch the ball in one of the cups, or on the pin, like this.")

2922: お~いいね! ワンノ v the 言えたね。

2932: (生徒4後半音読。やはり playing を praying のように発音。)

2945: お～いいね！拍手～！！

【内容理解】

2951: じゃあ内容理解 understand the contents に行きたいと思います。Okay, I'll give you three questions.

3005: (以下の文をスライドに出し、それを教師が音読。)

1. Does Yuki know how to play with a *kendama*?
2. Which is easier for Yuki to play with, a *kendama* or a yo-yo?
3. Who can enjoy playing with a *kendama*?

Please find the answer with your pairs. 周りのひととちょっと話あって答え探してみ。I'll give you one minute, maybe.

3055: (生徒の間を回りながら質問の意味に対する質問を受ける。)

3203: Okay, じゃあ1番わかった人？(生徒: Yes, she does.) いいね！ Yes, she does. 2番、Which is... (再度質問を言う。) わかるひと？(生徒: Praying with a *kendama* is easier than praying with a yo-yo.) ほうほうほう。。どう？The answer is... A yo-yo is. これ難しかったよね。教科書には、more difficult than 書いてあるよね。けん玉のほうの方が難しいって言ってたよね。でもこの文は、Which is EASIER?だよ。より簡単なのはどっちですか、けん玉ですかヨーヨーですか、って聞いているから Yo-yo is. って答え方になります。

3番は？日本語でもいいよ。(生徒: Both children and adults can.) お～それ正解です。Both children and adults CAN. どの文？みんな読んでみて。そう、A *kendama*, like a yo-yo, is a toy enjoyed by both children and adults. だよ。ここみんな復習しといて。both って、両方って意味ね。

【グルグル事前指導】

3401: Next グルグルやります。

3403: (スライドに以下の文を投影する: (1) I'll show you a Japanese toy called a *kendama*. (2) You catch the ball in one of the cups. (3) Playing with a *kendama* is more difficult than a yo-yo. (4) A *kendama* is a toy enjoyed by both children and adults.)

3408: じゃあみんな練習しようか。Repeat after me. (教師モデル→生徒リピート。)

3505: じゃあ後ろグルグル作って。楽しみだな～。みんな読めるかな。

【グルグル】

3538: (特別教室後方のスペースに、男女別に輪をつくり、女子を実習生、男子を指導教諭が担当しグルグル開始。目標文を見ながらのグルグルで開始し、途中から Read and look up のグルグルに移行。生徒の口もとに目線の高さを合わせるために中腰になり顔を覗き込む。)

4645: Time's up! (と言ったが時間の勘違い。)ごめん、ラスト一周にしよう。

4839: 男子やってるからリピートしようか。

4844: (女子全体でモデルについて文単位で見ながらのリピート。)

4925: (見ずに、チャンクごとのモデルリピート)

5031: OK! Please sit down. (生徒席に戻る。)

5040: みんな読めた？大丈夫？暗記まで言った人～！(かなりの生徒が挙手) 頑張ったね。みんなね、最後の2つくらい暗記するの難しいと思うから暗記して言えるようにしましょう。

5106 じゃあ最後 TH を練習して終わりにしよう。th あ th い th う th え th お (生徒リピート。)

5115: Okay, good! That's all for today. See you.

講評

授業直後の講評で以下の評価と修正提案を行った。

(1) 歌の指導の際、教師が生徒と一緒に歌っているのは生徒の発音の指導ができない。→【修正提案1】同時に声を出さず、生徒の発音を聞くこと。

(2) 実習生自身が、音声CDの聞き込みが浅くまた文脈の読み込みが不足、プロソディの分析が甘かった。その結果、特定のニュアンスをプロソディに込めるべきなのが意識できておらず、したがって生徒にも指導できていなかった。具体的にはCD音声では What do YOU think? となっているのを、What do you THINK? と指導してしまっていた。→【修正提案2】What do you think? で you のプロソディを正しく指導すること。

(3) 1320: カタカナ語として日本語に入っている語が新出語になっている場合、まさに絶好の発音指導のチャンスであるのだが、日英対比を生かした発音指導が不足していた。→【修正提案3】: 以下のようにカタカナと対比して指導すること。

- cup と「カップ」を対比して: 「cuppu じゃなくて、cup!」

- pin と「ピン」を対比して: 「ピン じゃなくて、ピン_ン みたいに小さな_ンを言うといいよ。」

- yo-yo と「ヨーヨー」を対比して: 「英語は ヨーのように伸ばすのじゃなくてヨウだよ」

- adult と 「アダルト」と対比して：「ルでなくてウミ
たいだよ。アダウト みたいだよ」

(4) 1835: 音声 CD を一度だけ流しただけで、その後は
すべて肉声でやった点について再考が必要である。音声
CD と教師の肉声の使い分け意識すべきである。音声 CD
はかなり自然で速かったの、それを最終目標として、
あれと同じように言えるようになるために、教師が肉声
で様々なテクニックによって生徒の音声で鍛え、最終的
には音声 CD と同じようなリズムとスピードで言えるよ
うになるのを目指すのがよい。→【修正提案4】いっそ
音声 CD の利用をやめ、教師自身の肉声でのアクアウト
を試してみることに。

(5) 1930: 音読に入る前に内容理解を十分に確認すべ
きだった。プリントの裏には日本語訳があったが、ほとん
ど確認せず音読に入ってしまった。またその訳は普通の
1文ずつの日本語訳なので、英語と日本語の対応関係が
特に下位の生徒には必ずしも明確ではなかったと思われ
る。日本語訳は、英語の語順に応じたスラッシュ訳がよ
い。また一連の音読活動のあとに、内容理解と称してQ&A
をしているが順序が逆である。音読の前に内容理解させ
ることが鉄則である。→【修正提案5】音読に入る前に
十分内容を理解させること。

(6) 2307: バズリーディングに入るまえの一斉音読練習
が質・量ともに不足していたために、バズリーディング
での生徒の音声の質が今ひとつ向上しなかった。→【修
正提案6】一斉音読指導をさらに徹底すること。

(7) 音声指導上の優先順位がずれていた、あるいは重
要事項の指導が不足だった。キーセンテンスである、I
think playing with a *kendama* is more difficult than
playing with a yo-yo. で、than の TH に焦点を当てて
発音指導したが、何と言ってもここは日本語母語英語学
習者にとっての最重要項目でもあり、かつ内容語の play
にもある、/l/ を最重点にすべきであった。than を zan と
発音したとしてもそういう単語は存在しないが、play に
は pray あるいは prey というミニマル・ペアの相手が
存在するという事もある。→【修正提案7】play の/l/
を発音指導重点項目とすること。

(8) 生徒の発音へのフィードバックが、やはり足りな
い。フィードバックをしようとしているのはわかるが不
足である。生徒に個人の作文を発表させたときに、「いい
ね!」と褒めた上で「ワンポイントアドバイスだよ」と
いって、R でも TH でも、ひとつだけでもフィードバック
して、当該生徒ではなくて全員に一回言わせてみる、と
いった地道な指導がほしい。生徒だけで一斉に読ませて

おいて、最初から最後までなにもいわず「結構読めるよ
うになったね!」で終わっては、せっかく読ませてみて
絶好の指導の機会を無にしたことになってしまう。→【修
正提案8】生徒になにか言わせたらかならず1箇所はア
ドバイスすること。

(9) 2510: チャンクごとにモデルなしで生徒たちだけで
一斉音読させる際、全員のタイミングをあわせるキュー
としてカスタネットを使用していたが、その代わりに次
の瞬間に言わせたいチャンクの簡潔日本語訳をすばやく
言わせてはどうだろうか。つまり、

I think / playing with a *kendama* / is more difficult
/ than playing with a yo-yo.

を音読させるためのチャンクごとキューとして以下の
[] のような日本語を与えてはどうか。

[思うな] I think / [けん玉で遊ぶのは] playing with
a *kendama* / [より難しい] is more difficult / [ヨー
ヨーより] than playing with a yo-yo.

これにより意味を意識させながら音読させることがで
き、「空読み」を防げるはずだ。→【修正提案9】音読キ
ューとして簡潔な日本語訳を用いてみることに。

(10) 教科書の本文をそのまま音読するのみだったが、
意味構造を意識させる音読を工夫してはどうか。実習生
なのでしかたないのだが、本文はそのまま、せいぜいチ
ャンクに区切って前からそのまま音読させるのみだった。
しかし、たとえば、

A *kendama*, like a yo-yo, is a toy enjoyed by both
children and adults.

という文ならば、

(a1) A yo-yo is a toy enjoyed by children.

(a2) A yo-yo is a toy enjoyed by adults, too.

(a3) A yo-yo is a toy enjoyed by children and
adults.

(a4) A yo-yo is a toy enjoyed by both children and
adults.

(b1) A *kendama* is a toy enjoyed by children.

(b2) *kendama* is a toy enjoyed by adults, too.

(b3) A *kendama* is a toy enjoyed by children and
adults.

(b4) A *kendama* is a toy enjoyed by both children
and adults.

と言う練習を、適宜日本語で意味をすばやく言いながら
言わせ、その総仕上げとしてはじめて

A *kendama*, like a yo-yo, is a toy enjoyed by both
children and adults.

と言わせれば、(1) 構文や修飾関係などがよりより理解されやすく、かつ(2) このユニットの文法的なキーである、【名詞+過去分詞での後置修飾】を単純なリピートでなく形を変えながら9回も言わせることに繋がる。

また、

I think playing with a *kendama* is more difficult than playing with a yo-yo.

ならば、

(c1) I think playing with a *kendama* is difficult.

(c2) I think playing with a yo-yo is difficult, too.

(c3) But I think playing with a *kendama* is more difficult than playing with a yo-yo.

のように、右手にケンダマ、左手にヨーヨーを持ち右手のケンダマの高さを左手のヨーヨーよりも高く持ち上げて言うことで、more difficult のイメージを現すことができるだろう。→【修正提案10】教科書本文のセンテンスの部分と部分を組み合わせて本文のセンテンスにつなげる、という提示を試してみることに。

アフター授業詳細

以上の講評をおこなった直後の時間に、同じ教材で別クラスに対して行った授業の詳細を以下に記す。

【歌】

0228: Let's start with [→with] Paprika.

0250: Okay, stand up! Let's sing Paprika. Go! (Paprikaの音源を流しながら、全員で歌う。実習生の行動はビフォア授業と同様でタンバリンをたたきつつ、自分でも大きな声で歌う。)

0407: いいね～歌えてるね! だいぶうまくなつたね。

【本日のメニュー説明】

0415: Let's check today's goal. (ビフォア授業と同様の説明。)時間があればグルグルもやります。イエーイでしょ? (生徒: シールもらえるの?) シールもらえるよ。

【宿題発表準備】

0531: Did you do your homework? No? Then, I'll give you two minutes. もし書き終わっている人は、もう one sentence, two sentences 書き足してみて。Ready? Go! (机間巡視しながら質問を受けたり、表現を提案したりする。)

0838: 誰か書けてる人いるかな?

1004: (スクリーンを下ろす。)みんな書けたかな? 書いてんじゃん。

【宿題発表】

1145: Okay! Look at the screen.

1150: What is he doing? He is ...? 日本語でもいいよ。He is ..本読んでるね、He is reading ... what's [→what] book? English book. Maybe he is very smart. Let's see [→look at] the sentences.

1213: (スクリーンに以下を投影: I went to the library last Sunday. I read some books written in English. But I couldn't read them because words were difficult. So I use a dictionary used by many students. After that, I could read them. And I want to study English hard.)

1218: 誰だっけ、これ書いてくれたの。〈生徒氏名〉か。〈生徒氏名〉読んでもらってもいい?

1221: (書いた本人である生徒1が音読。発音はあまり英語らしくない。) おお、いいね! 拍手!

1305: (useを指しながら。)ここ過去形だよ。I used a dictionary. だよ。どういう dictionary ですか? used by many students. いいね。じゃあこの文みんなで言ってみよう。"I used a dictionary used by many students." (生徒リピート。)元気がないな! もう一回いこう。(教師モデル→生徒リピート。) いいね! Okay.

1345: Next picture. (次の作品を投影。) Okay. What's this building? 東京タワー? Sky Tree? Who thinks 東京タワー? (生徒:No.) Nobody? (数名が挙手。) Okay, who thinks it's Tokyo Tower? あ、スカイツリー、スカイツリー? Who thinks it's スカイツリー? ね、スカイツリーだね。きっとスカイツリーだねと思います私も。Okay, look at the sentences.

1420: (スクリーンに以下を投影: I went to Tokyo by train next last month. I visited a famous tower called Tokyo Sky tree. It was very beautiful. I took a lot of pictures there. It was exciting for me.)

1430: (書いた生徒が音読。ほぼカタカナ英語。)

1449: いいね! next last week って? next がいないね。I visited a famous tower called Tokyo Sky tree. この文いいね。ちょっとみんなで言ってみよう。(教師モデル→全員リピート。)(モデル→生徒ひとりリピート。)

1610: もうひとりくらいかな。(3つ目のイラストを投影。イラスト中に実習生の氏名を含み、3名の氏名が書かれている。) あれ? Ms.〈実習生の姓〉. Who is 〈実習生の姓〉? (生徒:You.) Me? Ms.〈生徒の氏名〉. ちょっとどうということ?

Mr.〈教員の氏名〉. Mr.〈教員の氏名〉 校長先生、right? I have no idea.

1635: (スクリーンに以下を投影 : A group made Mr.<教員の氏名> angry. They are Ms.<実習生氏名> and Ms.<生徒氏名>. Why is he angry? Because the group didn't work all day and said him, "Give us money!")

1640: Could you read [it], please? (書いた生徒が音読。)

1708: この A group made Mr.<教員の氏名> っていうのは、A group made by Mr.<教員の氏名> is angry. っていうことかな? (沈黙。生徒ざわつく) これどうすればいいかな。どう変える? みんな。(しばらく考えて、使役動詞の made だと気づく。) この「make someone 形容詞」の形覚えてる? 覚えてる人? make you happy どういう意味? そう、あなたを幸せにする。そうだね。その表現だね。グループが〇〇先生を怒らせました、ってことだね。okay じゃあこの文、せっかく前習ったばかりだからリピートしてみようか。

A group made Mr.<教員氏名> angry. (教師モデル→生徒リピート。) okay. じゃあ後でみんな宿題集めるからね。

【単語の意味と発音】

1843: Let's check new words. Okay, repeat after me.

(以下、教師モデル→生徒リピート。適宜、補足説明。) "cup" これさ、カタカナだとカップって言うよね。「プ」って言うよね。だけど英語は、カッ p. <生徒氏名> やってみ。(生徒発音。) そう。

"pin" (と最後の/n/を強調して発音。) 先生なにか気持ち悪くない? ピン_ツってなるの。(生徒発音。) お〜いいね! "yo-yo" カタカナだと「ヨーヨー」だけど、英語だと「ヨウヨウ」。

"both" これどうやってやるんだっけ THの音。(大げさに口の形を作って見せる)大和田常務の写真を取り出し、ピフォア授業と同様に誰だか尋ねる。)「おしまい death」って演る人ね。(前の授業よりも発音もアクションも大げさである。)この口をみんな作って、言ってみよう! boTH. (生徒リピート)

おしまい deaTH! (生徒リピート)

"both A and B"

"adult"

【オーラルイントロダクション】

2108: Okay, so let's move on to Reading Activity ね。じゃあ先生がちょっとお話しします。

Does anyone .. Does someone ... Who can play *kendama*? いない? あれ、さっき<生徒氏名>できてなかった? Who can play *kendama*? <生徒氏名>できる? ちよっとやって。(生徒、「とめけん」を3度めで成功。喝采。)じゃ、これできる?(とヨーヨーを別の生徒に渡す。)

It's called yo-yo. (生徒、ヨーヨーを一回キャッチ。) お〜できた! ありがとね。 So, in Section 2, Yuki-san explain about [→explains] Japanese culture. Yuki-san explain [→explains] *kendama* and yo-yo. ではCDの代わりにきょうは先生がやります。その前にプリント配っちゃおうかな。(注:なぜここで配ったかは不明。当然、配らないほうが良かった。)

2310: Here you are. (と言いながら、みずから2枚ずつ配る。)

2334: Okay. じゃあちよっと先生見て。Listen to me. Listen to me.

Hi! I'm Yuki! Hi, I'm Yuki. So, have you seen this before? (と満面の笑みで生徒に問いかける。) Have you seen this before? (生徒: Yes.) Yes? Okay. It's a Japanese toy called a *kendama*. <生徒氏名> 見てる? It's (と言いながら剣先を指差す。) a Japanese toy called a *kendama*. I will show you (全員を指す。) how to play with it, how to play with it (と発音強調しながら言う。) You catch the ball (玉を指す。) in one of the cups. (大皿を指す。) How many cups does *kendama* have? (注:これは教科書本文にはない問い。) (生徒: Three) Three. みんなよく知ってるね。One, two, three. (と大皿、中皿、小皿を指す。) Let me try. できるかな。I'm Yuki. (と大皿にトライし、成功。拍手喝采。) You can catch the ball in one of the cups or (と言って剣を指差す) ... できるかな〜.. the pin like ... this. (と言ってとめけん_ンにトライするも、惜しくも失敗。) Also, (ヨーヨーを持ち出す。) this is yo-yo. できるかな、やったことないんだよ。(2回トライして1回目成功、2回め失敗。拍手喝采。) I think playing with a *kendama* (けん玉を左手に持って高く掲げる。) is more difficult than playing with a yo-yo. (ヨーヨーを右手にもって低く掲げる。) I think playing with a *kendama* is very very difficult. Playing with a yo-yo is also a little bit difficult for me, (と自分を指す。) but playing with a *kendama* is more difficult, more difficult. (と言いながらけん玉がより高い位置にあることを強調するジェスチャー。) Okay? What do YOU think? Who thinks playing with a *kendama* is more difficult? (けん玉を持ち、同意者は挙手して欲しいというジェスチャー。3分の1くらいの生徒が挙手。) *Kendama* is a toy, *kendama* is a toy enjoyed by both children and adults. Children can enjoy playing with a *kendama*. Also, adults,

adults can play ... can enjoy playing with a *kendama*. Okay? And once you start playing with a *kendama* (けん玉の玉を指す) maybe you cannot stop playing with it, because it's very interesting オモシロイ! it's very interesting. Okay? という内容です。

【チャンク毎・モデルあり・コーラス読み】

2700 Let's read chunk by chunk. Look at the paper.

(以下、""の箇所を、教師モデル→生徒リピート。)

"Have you seen this before?"

"It's a Japanese toy." これ「パ」って書いてあること「プ」になおしておいて(注:カタカナ表記を、「ジャパニーズ」から「ジャブニーズ」に修正させた。)

"called a *kendama*" こども d と a つなげておくといいね(とメモするように支持。)

"I'll show you"

"how to play with it." (生徒は pLay はほとんど言えていない、がコメントせず。)

"You catch the ball in one of the cups" みんな「ザ」っていったね。th... (生徒リピート) 音出してみて。/ð ð ð / (生徒リピート) ... それでいくよ。"You catch the ball in one of the cups" (生徒リピート) もう一回いくよ。"you CATCH the BALL in ONE of the CUPS"(と腿を手でタップしてリズムを取る。) うん、ワンノヴ、ワンノヴ、ワンノヴ、Okay?

"Or on the pin like this." (これを2回リピートさせる。) これ Yuki さんのこと言ってるからね。"I think" (生徒: I sink)

"playing with a *kendama*" これ L ががんばってね pLay pLay みんな見て、先生の口。じゃ練習しようか。みんな3番読んでみて。(生徒: あぶらもの、とりすぎみるみる、ふとりすぎ) いいね。じゃあ先生がスパイス変えます。あぶLa もの、と Li すぎ み Lu み Lu ふと Li すぎ! (生徒笑う。) みんなでやってみようか。L の発音でやってみて、せ~の! (生徒リピート。) pLay (生徒リピート。) Okay. あ、なんだっけ。"playing with a *kendama*" (生徒、wiz と発音)

"is more difficult" diffi 「かるかる」言わない、diffi 「こう t」(生徒リピート) かつこいいね、okay.

"than" THan だよ "THan pLaying" "than plaing with a yo-yo" (生徒リピートするが、L と TH の発音はいまひとつ、だがそこは指摘できず。)

"What do YOU think?" あなたはどうなんだよ、って聞いているから what do YOU think?

"A *kendama*, like a yo-yo,"

"is a TOY enJOYED" (の大文字で腿を叩く。)

"by both children and adults." アダルトつつった? adults.

"Once you start playing with it" (生徒の praying を聞き取って) pLay

"you can't stop."

【バズリーディング】

3212: Okay, I'll give you two minutes, so pRease [→please] pLactice [→practice].

(バズリーディングを見回りながら個別指導。)読み終わった人は、くり返し読んでね。繰り返し、繰り返し。

【チャンク毎・モデルなし・コーラス読み】

3420: OK, じゃあみんなで読んでみましょう。先生が日本語言います、なのでチャンクごとに読んでください。(以下、スラッシュ部分で、生徒が英語の該当部分を音読。) 今まででみたことがありますか? / これは日本のおもちゃです / けん玉と言われる/あなたに見せます/けん玉の遊び方を/ (ここで pLay に注意喚起) / ボールをつかみます/カップの中のひとつに/もしくはピン、このように/私は思う/けん玉で遊ぶことは/より難しい/ヨーヨーをすることより/あなたどう思う? / ヨーヨーのようにけん玉は/遊ばれるおもちゃです/こどもと大人の両方によって/いちどやり始めたら/やめられないでしょう! /

【センテンス毎・モデルあり・コーラス読み】

3611: オークーいいね! じゃ次。Let's read sentence by sentence. Okay repeat after me. (センテンス毎に教師モデル→生徒リピート)

"Have you . . ." いいね、上げてる人、良きだよ。

"It's a . . ." さっき言わなかったけど、Jaaaaapanese だよ。J/æ/だよ。真似してね。æ kə sæ tæ næ はい!

"I'll show . . ." pLay に注意喚起。

"You catch . . ." (生徒の発音に耳を澄ましている様子あり)

"I think . . ." うん。I sink って言ってる人いるね。sink だと沈んじゃうよ。沈むっていう動詞あるからね。(再度リピートさせる。) うん than も頑張ろうね。

THan!!

3810: (注: 次の文については単にそのまま音読するのではなく工夫しているのに留意したい。) じゃあここの文ね、ちょっと区切るよ。

Playing with a *kendama* is more difficult.

Playing with a *kendama* is difficult.

Playing with a yo-yo is difficult.

でもけん玉するほうがもっとむつかしいんだよ

Playing with a *kendama* is more difficult.
 "What do ..."
 "A *kendama* ..." (突っ伏し気味の生徒のところにさりげなく接近。生徒顔を上げる。)
 うん、ここさ、like a yo-yo かつこでくくってもらっていい？ (再度、リピートさせる。) バラバラだね。もう一回いくよ。(再度、リピートさせる。)
 "Once ..." (生徒が with IT のように区切って発音。)
 withit。(再度リピートさせる。) you CAN' T stop (再度リピートさせる。) できませんよ、って強調するためにね。

【センテンス毎・モデルなしコーラス読み】

4001: (カスターネットでキュー。)
 4016: called a (とリンキングを指導。)
 4020: you CATCH the BALL in ONE of the CUPS (と文リズムを指導。)
 (生徒の間を見回り、音読の状況を見ている。)

【個人読み】

4111: Okay good. じゃあ誰か二人読んでもらおうかな。読んでくれる人? Any voRunteer [→volunteers]? (ひとりに「依頼」して断られ、二人目に「依頼」してようやく決定)
 4150: (ひとり目、個人音読開始。～like this.まで。まずまずの読み。) うん、いいね! pLayね。Lay Lay Lay… play やってみて。(生徒:play) Okay, good, 拍手!!
 4220: (ふたりめ個人音読開始。I think から最後まで。非常にうまい。おそらく学校外で何らかの英語学修経験

があると思われる。) うん、<生徒氏名>も、pLayね。もうちょっとL頑張って、playing with itね。(注:しかしこの生徒の play(ing)の音は改めて筆者が聞くと完璧であったので、この指導は false negative である。)

【グルグル事前指導】

4255: じゃあどうしようかな、最後残り5分、グルグルやりましょう。あ!待って。先にリピートしよう。もう一回座って。秒で行こう、秒で。Repeat after me. (以下、教師モデル→生徒リピート。)

1. I'll show you a Japanese toy called a *kendama*.
2. You catch the ball in one of the cups.
3. Playing with a *kendama* is more difficult than yo-yo.
4. A kendam is a toy enjoyed by both children and adults.

Okay, go! Go, go go! (生徒後方に移動。)

【グルグル】

4413: (グルグル開始。実習生は女子生徒を、指導教員が男子生徒を担当。生徒は見ながらの音読。中腰になり、生徒の口を覗き込む。ダメだった場合は原則としてその場でもういちど言わせている。20名終わった時点でチャイムになるが「あと一周するよ!」と言って継続し、のべ32名をグルグル。)
 4811: Time is up! (若干名の生徒が「聞いてください!」と食い下がる。) 授業は終わったのでじゃああとで。
 4835: Okay That' s all for today. See you!

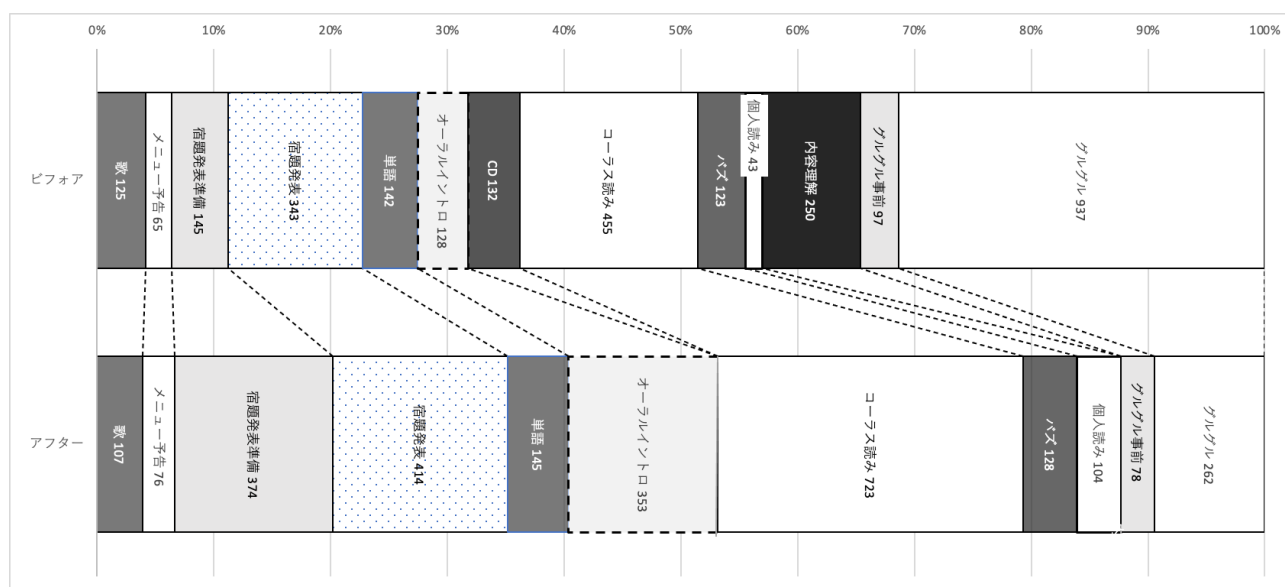


図1 ビフォア授業とアフター授業の段階別所要時間の比較 (単位は秒)

考察

まずビフォア授業直後の講評で行った修正提案がアフター授業にどの程度実行されたかを確認してみる。

【修正提案1】歌の指導時に生徒と同時に歌わず生徒の発声を聞くべし、という提案は反映されず、アフター授業でも変化はなかった。生徒の発声を「サポートしよう」という気持ちからどうしても同時発声してしまうという「脊髄反射」は根強いようである。

【修正提案2】適切な What do YOU think? というプロソディはアフター授業では実現されていた。

【修正提案3】カタカナ語として日本語に入っている語の発音指導では日英対比を活用する、という方法は実現された。

【修正提案4】音声CDの利用をやめ肉声でのアウトプットを試みよ、という提案は実行された。図1にビフォア授業とアフター授業の段階別所要時間を示す。ビフォアにあったCD音声再生はゼロになり、肉声でのオーラルイントロダクションは、128秒から353秒へと大幅（2.8倍）に増加した。これはビフォアのオーラルイントロダクションとCD再生の合計時間260秒よりも多い。観察していた時の印象としても、アフター授業での生徒の反応は格段に良く、実習生の一挙手一投足を食い入るように見つめ、内容の理解も深まっていると推測された。この意味でこの修正は成功したと言える。ただしCD音声は最終到達目標のモデルとしての役割があるのであり、肉声と「棲み分ける」形で50分の指導のどこかに位置づける必要はある。今後の課題である。

【修正提案5】音読のまえに内容理解を徹底せよという提案は、オーラルイントロダクションを充実したことにより十分に実現されたと言えるだろう。

【修正提案6】【修正提案7】pLayの習得に焦点をあてつつ一斉音読指導を徹底せよという提案は実現された。モデル有り／無し、チャンク毎／文毎を合計した「一斉音読」の時間はビフォアの455秒からアフターの723秒へと大幅に増加した。全体的な音読の回数（本文の最初から最後までを何回読んだか）自体は同一であり、増加したのは（1）逐一の修正フィードバックと、（2）それに伴うチャンク毎の再音読の回数である。pLayに関する修正フィードバックはビフォア授業では2回、アフター授業では6回である。音読の最終クオリティ（とくにpLay）もアフター授業のほうが高かったと感じられる。

【修正提案8】個人音読でかならず修正フィードバックをせよ、という提案は実行された。ビフォアは個人音読

での発音フィードバックはゼロだったのに対し、アフターは全員（といっても二人だが）に対して行っていた。ただし二人目のフィードバックがfalse negativeであったことは上でも指摘した通りである。「pLayもきちんとできていたね」というpositiveの補強であるべきであった。このあたりの聞き分け力は今後の課題である。

【修正提案9】モデル無しチャンクのコーラス読みのタイミングをとるキューとして簡潔な日本語を用いる、という提案は実現された。

【修正提案10】本文の文そのままではなく、文構造を意識されるような音読指導を取り入れてみよという提案は、3810時点で実現された。

図1を見て2つの授業の違いとして目立つのはまず「宿題発表準備」時間の増大(145→374)である。これはアフター授業のみ、生徒の実態から実際の発表の前に完成していない生徒は完成させる時間を取らざるを得なかったためである。しかも当初は「2分あげます」と言ったのだが結果的に6分以上を費やした。「宿題発表」自体もビフォアの343秒に対してアフターでは414秒をかけており、準備と合わせてこの宿題関係の時間の差がビフォアとアフターの時間的な違いとなった。これはたまたまこの時存在していたクラス間の一種の進度の違いであり、実習生の指導の巧拙の問題とは言えない。

問題だったのは、ビフォア授業にもアフター授業にもそれぞれあった不十分あるいは不正確な文法的フィードバックである。これは率直に言って、実習生のモニター力に照らしたとき、その時初めて見た生徒の英作文の文法的誤りの有無と軽重を瞬時に判定し適切な修正フィードバックする、という指導プラン自体にそもそも無理があったと考えられる。実習生としてはやはり事前に時間をかけて精査したフィードバックを生徒に提示する、といったサイクルを取るべきだったろう。また授業全体のバランスとしてこの活動に8分強（ビフォア）、13分強（アフター）費やしたのは長すぎた感は否めない。

宿題関係の所要時間の増大にともない、残念ながら結果的に圧縮されたのがグルグルの時間である。アフター授業での「宿題発表準備」作業に費やした5分あまりをそのままグルグルに回せていたならば、単純計算で $262 + 304 = 566$ 秒（9分26秒）をグルグルに確保できたはずである。さらに昨今の中学授業では定型的に行われているらしい「本日の活動のメニューの予告」であるが、たった50分の授業時間の1分以上を使って行う価値があるのか、個人的にはかねてから疑問である。これもグルグルに回せていたならば、 $566 + 76 = 642$ （10分42

秒) が使えただろう、という「タラレバ」が成り立つ。

まとめ

以上、実習訪問時の講評により、同一教材・同一範囲を扱ったビフォア授業とアフター授業にどこまでの変化が生じたかを検証した。考察で細かく触れたように、講評で与えた指示、提案は一つを除いてすべて実行された。最も大きなポイントは、(1) オーラルイントロダクションでの肉声の活用による理解の深化、(2) コーラス音読時、個人音読時における音声面のフィードバックの質の向上と頻度の増大、の2つである。

その点からはアフター授業はビフォア授業よりも、少なくとも筆者の評価基準による限りにおいては格段に優れたものになった。実際に生徒の様子を観察していても肉声によるオーラルイントロダクション時の生徒の惹き込まれ方はビフォア授業では見られなかったものであるし、この授業中に生徒が到達した音読の質はアフターでのほうが高かったと感じる。

静・淡路(2017)に続いて今回の検証でも、教育実習訪問時の講評は授業改善に有効だと確認できた。しかしそもそもなぜアフター授業のような実践が最初からできないのか、という根本問題は残る。講評をしている筆者は本学の「教科教育法(英語)基礎」の授業担当者である。今回の実習生も当然同授業を過去に履修しているし、講評の中でおこなった修正提案も内容的には「教科教育法(英語)基礎」で教えているはずである。言われたことはあっても実際に生徒を前にするとできないことも多い、ということだろうか。本論文の対象となった両動画を今後の「教科教育法(英語)基礎」でも扱うなどして、そもそも最初から今回のアフター授業のクオリティが実現されることを理想として目指してゆきたい。

それとは別に今回の授業動画を見返しながら、当該実習生の教員としての適性の高さを改めて感じた。天性の明るい表情、よく通る声、生徒を褒めて伸ばそうという姿勢は得難い資質である。今は実際にある自治体の教員となっている彼女の今後の活躍に大いに期待したい。

引用文献

静哲人(2016). 「英語を英語で教える手法を提案する
(1) 一教育実習生の「多重知能理論」に関する文の
説明をたたき台として」『大東文化大学教職課程セ
ンター紀要』第1号, 77-85.

静哲人(2017a). 「英語を英語で教える方法を提案する
(2) 一教育実習生の「音楽抑揚療法」に関する

文の説明をたたき台として」『大東文化大学教職課
程センター紀要』第2号, 117-126.

静哲人・淡路佳昌(2017). 「教育実習訪問指導による英
語授業改善の検証 一録画ビデオ分析によるケー
スタディ」『大東文化大学教職課程センター紀要』
第2号, 127-138.